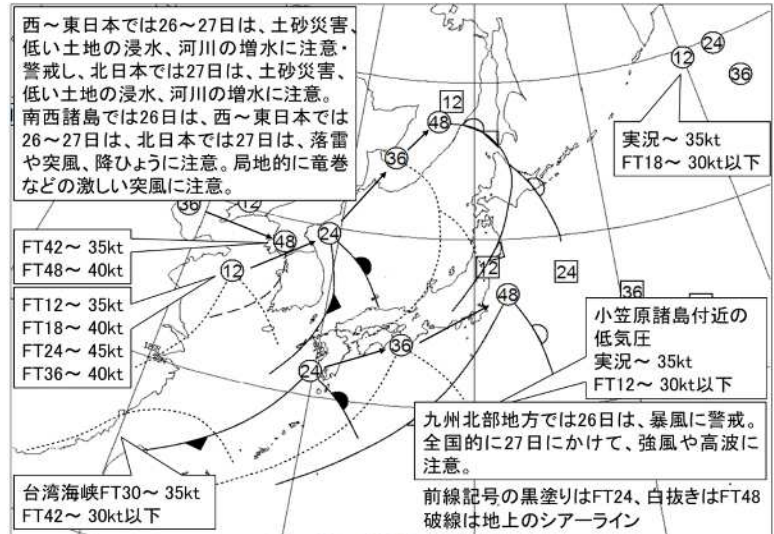


1. 実況上の着目点

- ① カムチャツカ半島付近には発達した低気圧があって、低気圧周辺で気圧の傾きが大きくなっている。北日本では、やや強い風が吹いて、波が高くしけとなっている所がある。
- ② 日本海には高気圧があって東南東に移動。日本付近は広く高気圧に覆われて晴れている所が多い。
- ③ ②の高気圧縁辺を回る下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定。沖縄本島付近や先島諸島付近では、1時間 20～30mmの雨量を解析。
- ④ 華北付近には 500hPa -36℃以下の寒気を伴った 5460～5520mのトラフがあって東南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は26日にかけて、千島の東を東進。低気圧の周辺では気圧の傾きが大きく、やや強い風が吹いて、波が高くしけとなる所がある。北日本では26日にかけて、うねりを伴った高波に注意。
- ② 1項②の高気圧は、25日夜には北日本、26日には日本の東に移動する。高気圧の縁辺では気圧の傾きが大きくなり、風浪と2項①の低気圧からのうねりも加わって波が高くなる所がある。南西諸島と東日本太平洋側では26日にかけて、うねりを伴った高波に注意。
- ③ 1項④のトラフは深まりながら、26日朝には黄海付近に進む。トラフに対応する低気圧は25日夜には黄海に、26日朝には日本海西部に進む。その後、27日にかけて閉塞しながら沿海州付近まで進む。また、500hPa 5700～5760mの正渦度移流に伴って、26日朝には前線上の九州南部付近に低気圧が発生し、その後27日にかけて西～東日本太平洋側を通過し日本の東に進む。これらの低気圧からのびる前線は、26日は南西諸島、26～27日にかけて西～北日本を通過する。低気圧周辺や前線近傍では気圧の傾きが大きくなり、全国的に26～27日は、強い風(局地的に非常に強い風)が吹いて、波が高くなりしけとなる所がある。九州北部地方では26日は、暴風に警戒。全国的に26～27日は、強風や高波に注意。また、低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨や局地的に非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。西～東日本では26～27日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、北日本では27日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。南西諸島では26日は、西～東日本では26～27日は、北日本では27日は、落雷や突風、降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：四国150、九州北部・沖縄100mm。② 波浪(明日まで)：北海道・九州北部・沖縄4、その他3m。③ 高潮(明日まで)：東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。